

# 論文づくりの作業ステップ

---

福井県立大学経済学部  
小倉研究室編

# 論文づくりの作業ステップ 目次

---

1. 論文づくりの基本的作業ステップ
2. 論文づくり作業の時間的順序
3. 構造部分の大事さと裏腹な実態
4. 構造的ステップをこなす力を身に付けさせるポイント
5. 構造把握力の目安は、書くことに関する自己修正能力の獲得に置く
6. 文章表現力を身に付けることの難しさ
7. 論理構成(議論の筋道を組み立てる)ステップ
8. 文章構成(文章の骨組みを組み立てる)ステップ
9. 表記、書式、形式ルールを守ることの大事さ
10. 文章表現(わかりがよい文章を書く)ステップ

# 1. 論文づくりの基本的作業ステップ

## 1. 論理構成(議論の筋道の骨格)ステップ

- ロジックツリー
- コンセプトチャート(マップ)
- PPT的なツールで表すと効果的である

## 2. 文章構成(文章を組み立てる骨格)ステップ

- ロジックツリーやMECEを意識した書き方に留意
- パラグラフライティングを意識した書き方に留意

## 3. 文章表現ステップ

- 個別的具体的な文章づくり
- 文章表現ルールを守る。「てにをは」ルールを知る

構造にかかわる  
→自己修正能力が必須



見える化  
の必要性

形式と表現  
→添削できる部分

## 2. 論文づくり作業の時間的順序

---

1. 論理構成ステップ
2. 文章構成ステップ
3. 文章表現ステップ

作業の時間的順序は、この順番どおり

- 学生の現実には、1、2のステップをほとんど行なわれないまま、いきなり3の作業を行なう。しかも文章表現のルールを知らず、スキルも身に付けられないまま。ここに大きな問題がある

### 3. 構造部分の大事さと裏腹な実態

---

#### □ 論文の構造的部分が論理構成、文章構成

これを欠くと、論文づくりが成り立たない。実際、指導者が論文の添削をしても、直せる部分は、基本的に構造にかかわらない文章表現を中心にした部分である。逆にいえば、執筆者本人が構造部分をつくり上げる作業をやらないで、添削作業だけに頼って論文をよくするのは無理ということでもある

#### □ なぜ、構造的部分への配慮が欠落するのか

日本の大学・大学院では、従来、このステップを教えてこなかった。学生が自分の力でつかむものとしてきた。

#### □ やり方さえ教われれば、自分でできるようになる

構造部分をつくるのが、本質的にむずかしいわけではない。やり方さえ教われれば、かなりのところ執筆者が自分でできるステップになる

## 4. 構造的ステップをこなす力を身に付けさせるポイント

---

### □ 手順化、標準化、フォーマット化を図る

学生に論理構成ステップや文章構成ステップをこなす力を身に付けさせるには、それに関して手順化、標準化、フォーマット化を図るのがよい

### □ これにより、構造的ステップを「見える化」できる

### □ 日本の大学を振り返ってみると、実際、この点が非常に不十分であった

## 5. 構造把握力の目安は、書くことに関する自己修正能力の獲得に置く

---

- 論文づくりにおいて、構造を組み立てる力が付いたかどうか判断する目安
- それは、自己チェック能力・自己修正能力の獲得にあり

自分で書いた原稿を見直して、自己チェックができるかどうかは、論文の構造を組み立てる力があるかどうかと大きくかわる。したがって、論文の構造を組み立てる力が付いたかどうか判断する目安も、この意味での自己修正能力ができてきたか否かに置くのがよい

## 6. 文章表現力を身に付けることの難しさ

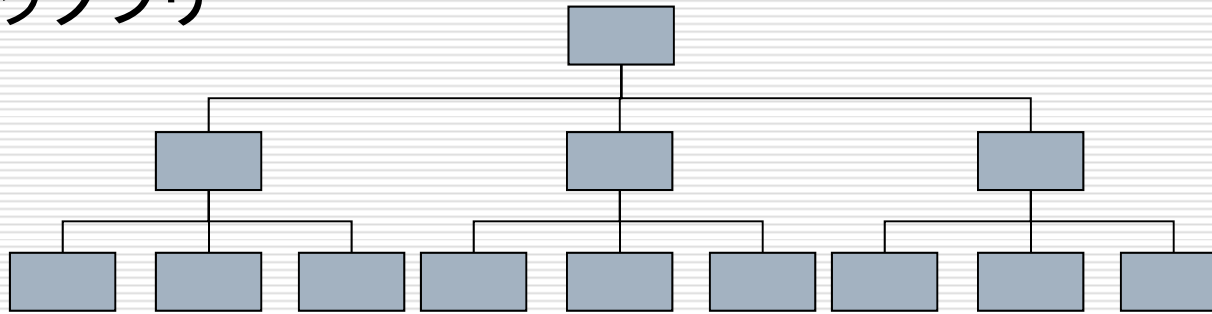
---

- 文章表現力を身に付けるのはなぜ難しいか  
文章表現作業は、実質的には文章づくりの構造にかかわる文章構成づくり作業と一体的になるため
- 文章構成づくりに関する基本的スキルも、日本の大学等では教えられてこなかった
- 文章表現は日常的継続的な訓練が必要  
文章表現は教わっただけでは身に付かない。日頃の訓練や修練がないと、身に付かない能力である。これも文章表現力を身に付けるのを難しくする

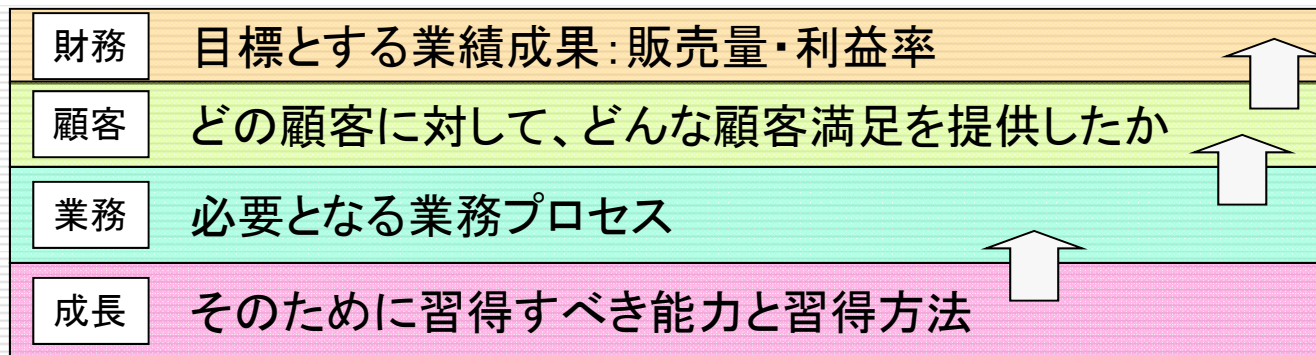


## 7. 論理構成(議論の筋道を組み立てる) ステップ

### □ ロジックツリー



### □ コンセプトチャート(マップ)

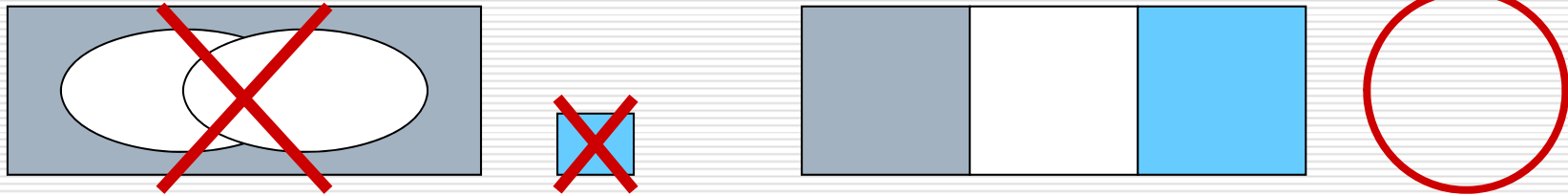


PPT的なツールを使うと、見える化の点で効果が大い<sup>9</sup>!

## 8. 文章構成(文章の骨組みを組み立てる)ステップ

---

- ロジックツリーやMECEを意識した書き方
  - Mutually Exclusive ,Collectively Exhaustive
  - 全体をモレなく、ダブリなく分けるための手法



- パラグラフライティングを意識した書き方
  - 論理を積み上げていくには、基礎的単位や区切りが必要となる
  - パラグラフの冒頭にはトピックセンテンスを置く
  - トピックセンテンスの後には、根拠、裏付け、例証となる部分が続く
  - 最後にパラグラフの要約文がくる

## 9. 表記、書式、形式ルールを守ることの 大事さ

---

### □ 表記、書式、形式ルールを守って書く

これは文章構成作業と、文章表現作業の両方にかかわる。外形や形式のことだけに、これは少し注意すれば、自分でもできる。それゆえ、このことの重要性は、いくら強調しても強調しすぎることはないといってよい。

### □ このため、基本的な表記、書式、形式ルールをよく知ることに

# 10. 文章表現(わかりがよい文章を書く) ステップ

---

- 個別的具体的な文章づくり
  - 短文を基本にして書く
  - 主語、述語は近づけて書く
  - 1文では1つのことしか言わないようにする など
- 文章表現ルールを守る、「てにをは」ルールを知る
  - A4版 縦置き、左横書き
  - 40字×40行を基本とする
  - ゴシック、その他の文字フォントは使わない、数値類は半角
  - 記号類は必要最小限の使用にとどめる
  - 漢字とかなの基本的使いわけ  
(副詞、接続詞、形式名詞等はすべてひらがな) など

# End

